

市民フォト 鹿児島

平成6年(1994年) 鹿児島市広報課
10月1日発行

No.58

【特集】文学の舞台鹿児島





山下町の上空から北ふ頭

山下町の上空から北ふ頭方向を望んでみた。
写真手前中央、緑の区画はリフレッシュした中央公園。緑豊かな「歴史と文化の道」沿いに、美術館（うす緑の屋根）、県立図書館、黎明館などが建ち並んでいる。
写真右手は本市の中心地、いづろ・天文館地区。右手下側には市内一の、のっぽビル商工会議所ビルが見える。

写真中央は鹿児島港本港区北ふ頭。昭和61年度から埋立がはじまり、昨年12月、供用が開始された。離島航路の集約化が図られ、旅客ターミナルやボートウォーターミナルなども整備された。平成8年度には仮称・かごしま水族館が完成する予定である。



C O N T E N T S

市民フォト鹿児島No.58

わがまち上空散歩	2
【特集】文学の舞台鹿児島	
クローズアップ	12
学校探訪	14
技の世界	16
ハロー鹿児島	18
シティーアングル	19

わたしの好きな場所	●前田一郎さん	20
ふるさとの歴史探訪	●吉野町(実方)	22
よかタイム	●池田敏孝さん	24
かごしまの自然	●犬迫町	25
市民ギャラリー	●谷山市民会館	26
あなたのフォトサロン	●花のファンタジー	28
集えれば楽し	●いしき園ミュージッククラブ	30
市立美術館	●寿老人	31

●「表紙」写真説明

今日はミス鹿児島の飯山香織さんが生け花に挑戦です。ちょっと緊張気味ですが、やさしい先生の教えて徐々に生け花を楽しめるようになりました。

四季折々の花の美しさを花器に凝縮する生け花。空間と花々の調和が人的心をなぐませます。

尾花(ススキ)に秋が漂います。

【特集】 文学の舞台鹿児島

No. / No. / + 105行

名瀬 大山み之七
島鹿 故郷

とく大ざつはなことしか言えないと。名瀬
の町にうつり住んでしまずおどろくのは物價
が一般に高いこと。なかでも野菜とく衣料品
のうち既製の品はともかくも生地類がとびぬ
けて高い。ほかの土地と比較してどのくらい
△とくことは充分な資料をもつてゐるわけ
ではないから示せないが、たとえば衣料品價
といもいうものではかつたとすればさし当
てその日その日の食料に欠くことのできな
い野菜が多瀬いくるまえに住んでいた所で
の値段の三倍も五倍もしていふと感じて新來
者は恐怖的な生活の脅威をおぼえるはずだ。
三十一年の秋私たちが名瀬にきた当座はもう
く最悪の條件がいくつも重なった結果と思わ
れるが、大根一本が四十八円の値段であ

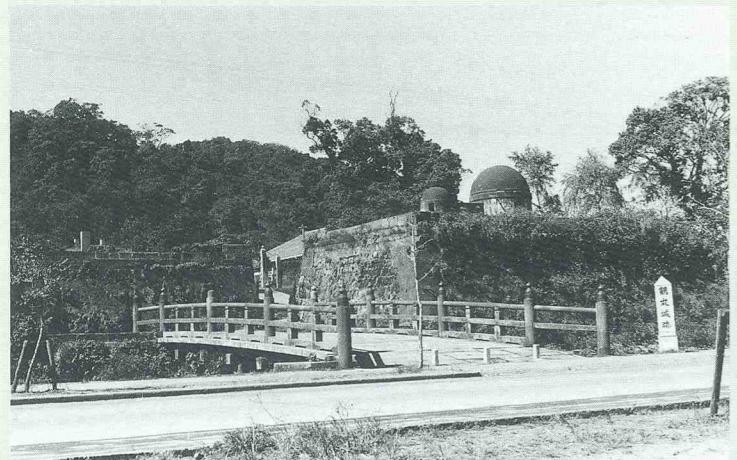
20×20

01 142

文学の舞台というと東京、大阪が中心だとお思いの方も多いのではないで
しょうか。

しかし、本市の美しい自然や風土を取り上げた作品はたくさんあります。中には、舞台が鹿児島でなければ作品としての名声を得なかつたものもあるかも知れません。作家の豊かな感性と鹿児島の風土が生み出した作品群を一部ではありますが特集してみました。私たちの眼前に広がる錦江湾と桜島にしても、多くの作家達が描いています。時を超えて、作家それぞれが見、感じ、描写した鹿児島に触れてみませんか。

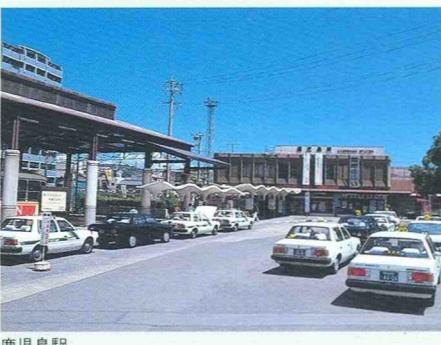
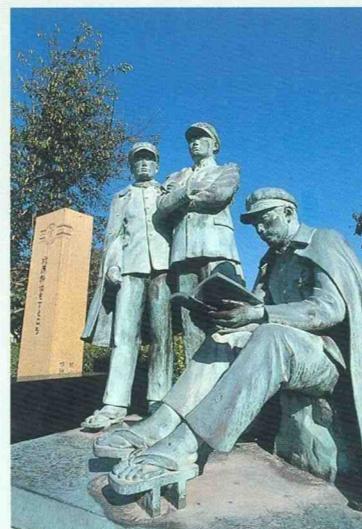
【特集】文学の舞台鹿児島



七高造士館のあった鶴丸城跡

「遠からん者は音にもきけ」 黒田三郎
【作品解説】作者は昭和六年県立第一中学入学。この中学で、「たつたひとりの生涯の友」となる宮内二郎（鹿大教授、昭和五十年没）との出会いがあった。この詩は宮内の突然の死を悼み、創つたものである。

君も僕も
ギ（理屈）を言うなという土地柄で
育つたのだ
大言壯語などする筈がなかつた
何よりもひつかぶり（臆病者）を軽蔑した
君と僕とでは
こんなことは
ことさら言ふことでは全然無い
わからきつたことだ
当世の人間が
当世の金権社会が
わからぬだけのことさ
その君が死んだ
（後略）



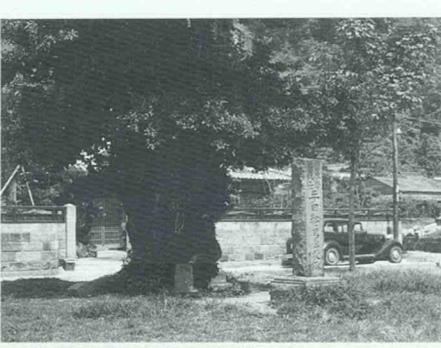
鹿児島駅

さうして鹿児島へ著いた。夏の六時
だから、まだ明かるい。向うに洗つた
様な綺麗な色の山が見える。駅の歩廊
に降り立つた場所と、その山との間に
海がある事を知らなかつたから、それ
が桜島だと云ふ事はわからなかつた。
「阿房列車」 内田百閒

【作品解説】昭和十七年に三笠書房から刊行。作品は、特別な目的もなく移動する旅の紀行文である。この中に「鹿児島阿房列車」が収録されている。

もともと敗れ切るために汗を流し、力を絞つて来た御手伝いの方なのである。一尺、工事を進めることは、一尺敗北に近づくことであつた。竣工は完敗の同義語でもあつた。
出来栄検分に随行し、晴れの嘉賞をうけながら、かたくなまでに悦ばうとしない平田総奉行の表情を、及川は胸ぐるしく思い浮かべた。
「孤愁の岸」 杉本苑子

【作品解説】「孤愁の岸」は、昭和三十七年に書き下ろし長編歴史小説として発表され、昭和三十八年下期、第四十八回直木賞を受賞。作品は江戸時代宝暦年間、幕命により薩摩藩を行つた木曾川の治水工事を題材に、総奉行平田朝貢を中心とする薩摩藩士の苦難を描く。



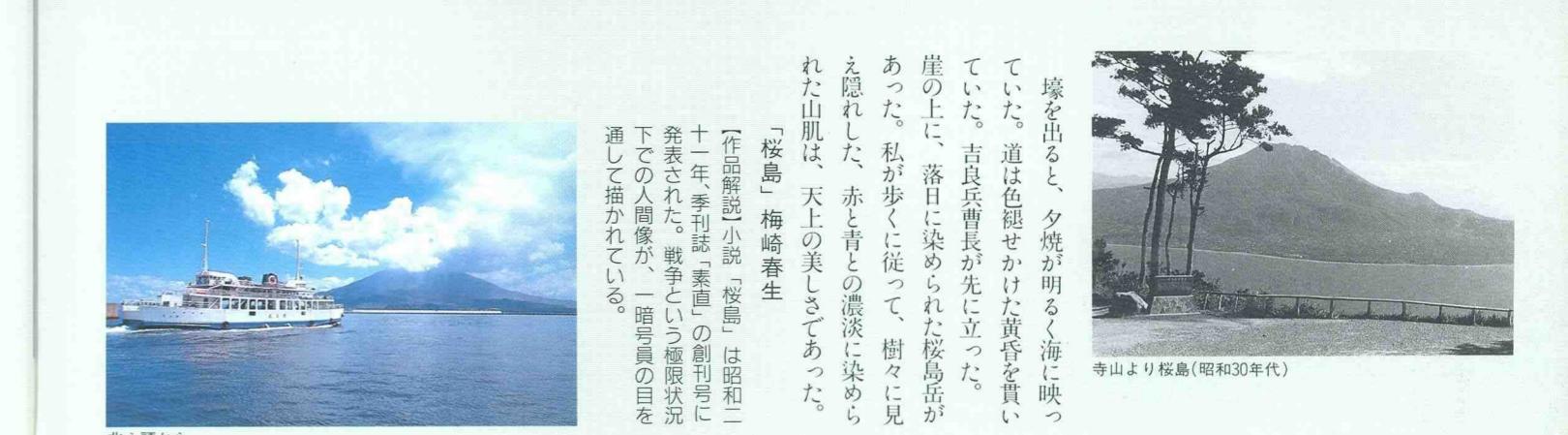
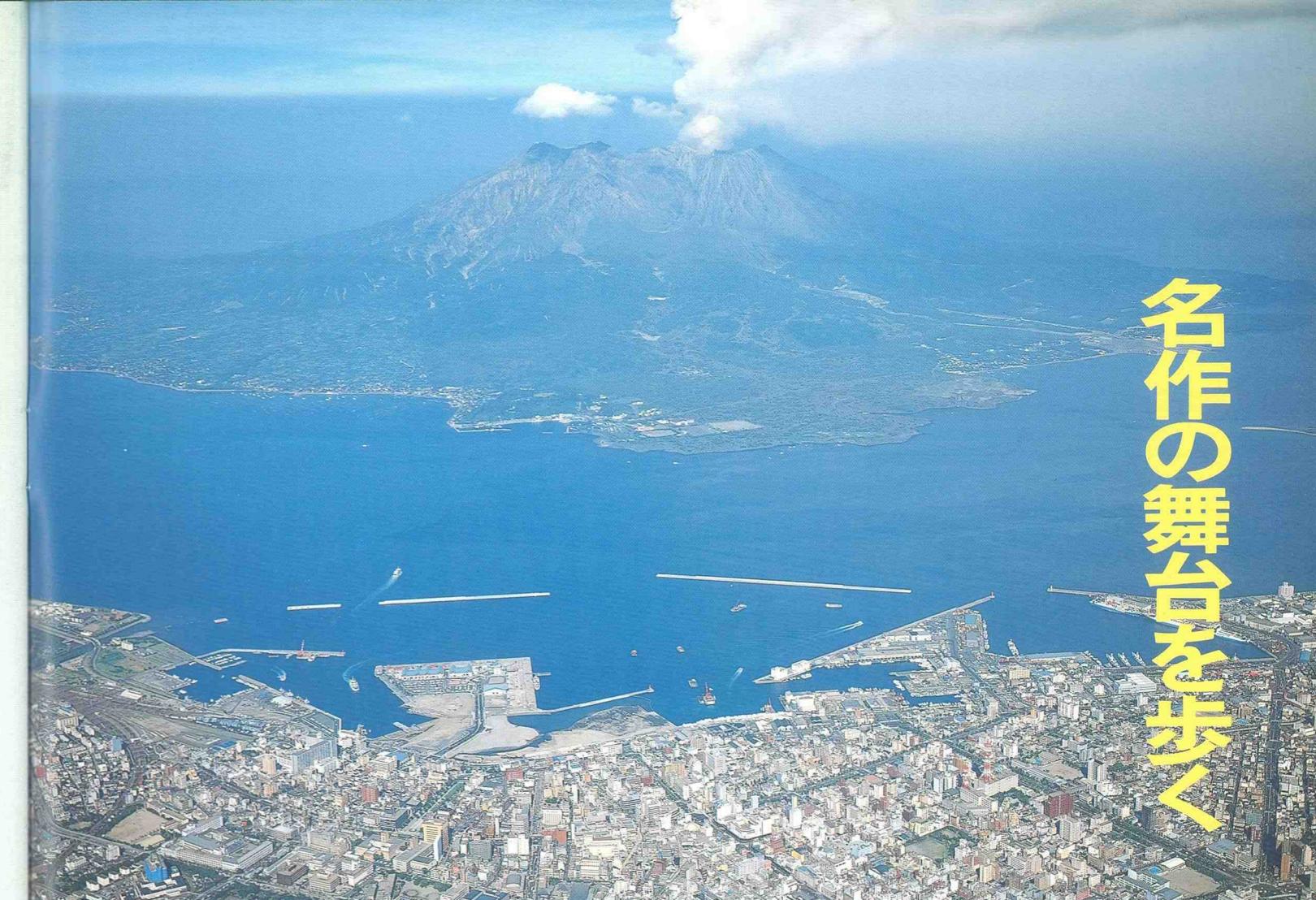
平田朝貢屋敷跡(昭和20年代後半)



昭和30年代



平田朝貢像



北ふ頭から



桜島大根

壕を出ると、夕焼が明るく海に映つていた。道は色褪せかけた黄昏を貫いていた。吉良兵曹長が先に立つた。崖の上に、落日に染められた桜島岳があつた。私が歩くに従つて、樹々に見え隠れした赤と青との濃淡に染められた山肌は、天上の美しさであった。

「桜島」 梅崎春生
【作品解説】小説「桜島」は昭和十一年、季刊誌「素直」の創刊号に発表された。戦争という極限状況下での人間像が、一暗号員の目を通して描かれている。

十一月になるとツバキが咲いた。桜島大根の煙が日を追つて緑を増した。その常夏の国にも春の季節だけはさわめてはつきりしていた。梅、桃、桜と相繼いで咲いて、そして、ツツジが咲いたときが、この桜島の最も美しい季節であつた。

「桜島」 新田次郎

【作品解説】小説「桜島」は、昭和四十四年「小説エース」二月号に発表され、同年五月学習研究社刊の「神通川」に収録された。この作品は、主人公の地球物理学者佐川が、大正三年の桜島大爆発にまつわる話を軸に、その後、三八年たつた鹿児島を舞台に、その後、桜島に住みついて火山の観測・研究に打ち込む姿を描いている。



寺山より桜島(昭和30年代)

名作の舞台を歩く

【特集】文学の舞台鹿児島



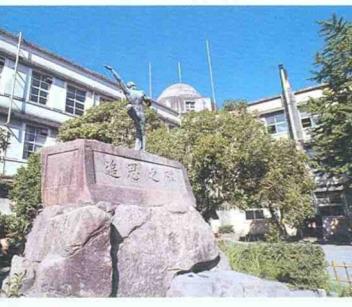
鴨池ニュータウン



当時の鴨池空港



昭和23年頃の鹿児島市(新村豊さん撮影)



甲南高校



荒田八幡宮



二人は、県立第二中学校に首尾よく入学したので、照国神社から荒田八幡に礼拝した帰りである。といつても、二人が少年に似気なく、信心気が深かつたわけではない。事ある毎に、藩主の社と産土神と、それから先祖の墓に詣るのが、土地の風なのである。

「海軍」獅子文六
〔作品解説〕昭和十八年発刊。新聞連載小説。太平洋戦争の真珠湾攻撃で特殊潜航艇の九勇士の一人として戦死した横山正治の生涯を描く。



昭和25年の名山堀(鹿児島市戦災復興史より)

機は洋上に出た。
「こわいですか。顔色が悪い」「いや。くたびれたんだろう」
こわくはなかつたが、体のどこかが震えていたのが判る。手や足でなく、何かが内部のもの。気分と関係なく、何かが律動している。そんな感じがあった。
機は洋上に出た。速力がすこし純つたらしい。錦江湾の桜島をゆっくり半周して、高度を下げた。空港の滑走路がぐんぐん迫つて来る。着地のショックが、高松や大分のとくらべて、かなり強く体に来た。しばらく滑走して、

がたがたと停つた。特別な形をしたトラックが二台、彼方が全速で走つて来るのが見える。五郎はバンドを外した。爆音がなくなつて急に機内の空気がざわざわと泡立つて來た。外は明るかつた。南国なので、光線がつよいのだ。タラップを降りる時、瞼がちかちかと痛かった。

「幻化」梅崎春生
〔作品解説〕昭和四十年発表。主人公久住五郎は、「つながり」を確認するため、精神病院を抜け出し、羽田から鹿児島へ、さらに二十年前暗号兵として勤務していた坊津へと旅をする。

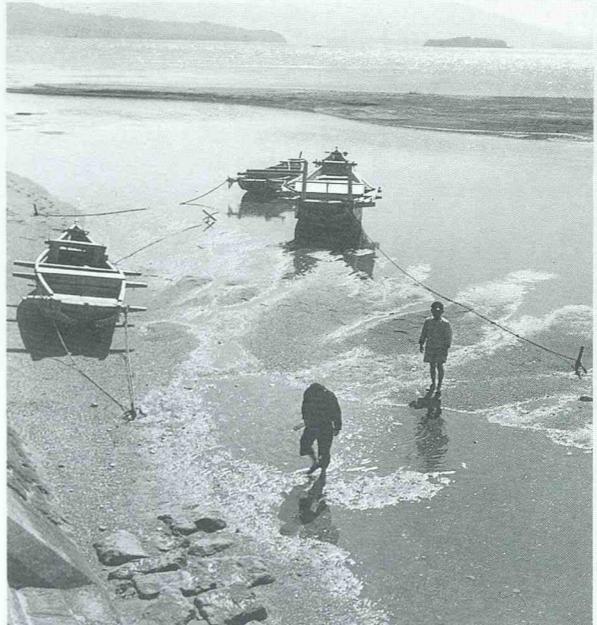
市庁前が指定の集合場所である。慶二は中之平の通りを左に約百メートルほど歩いて南泉院馬場に出た。馬場の山側は境内で、島津斉彬、久光をまつた照国神社である。鹿児島市街はここを扇の要にして左右に街筋が並び、まっすぐ正面は鹿児島湾にむかって道を通じている。境内の前の図書館の角を曲ると、いつか慶一が藤田昌子を送った第七高等学校の前へ出る。慶一はまっすぐ馬場を下つて、裁判所の横から西本願寺別院のほうへ左に道を曲つて市庁舎前に出た。

「夏草」前田純敬

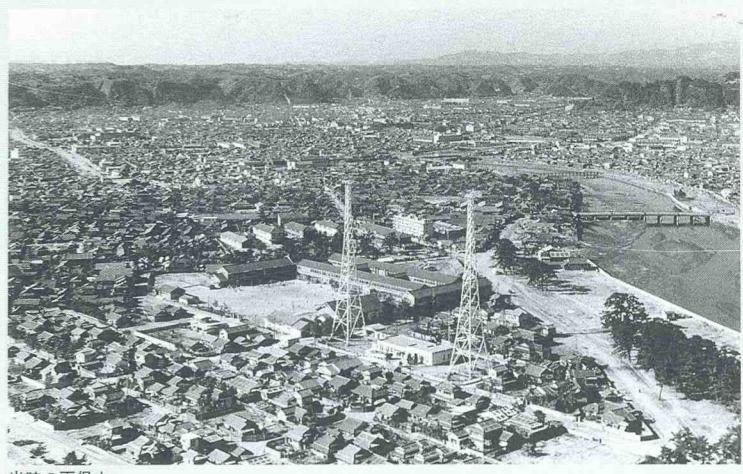
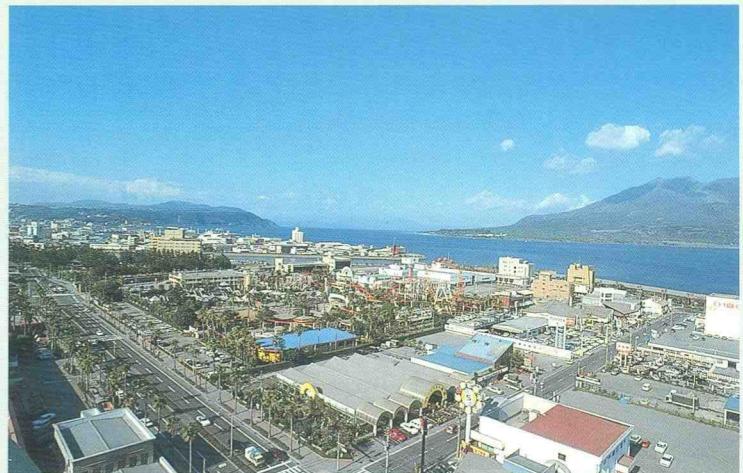
〔作品解説〕昭和二十四年「群像」に

発表され茶川賞候補となる。主人

の目を通して、空襲によって破壊されゆく鹿児島の風物が克明に描かれている。



甲突川河口(新村豊さん撮影)



当時の天保山

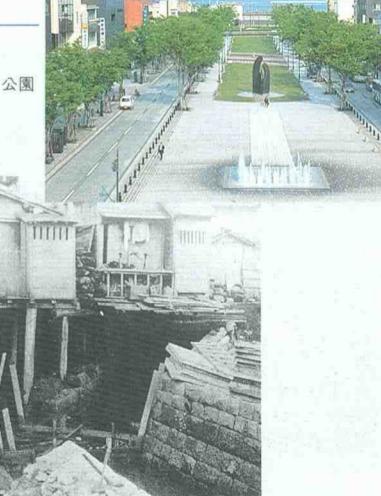
テンボザン テンモンカン

知らない人が聞いたら、競馬の馬の名前ですかと言われそうだが、鹿児島に住んだことのある人間だつたら聞いただけで懐かしさに胸の中が白湯でも飲んだようにあたたかくなつてくる響きがある。(略)

昔、私がボヤボヤとシユミーズで泳いだり、脱衣籠に入れておいた母の手作りのキヤラコのズロースを盗られて半ベソをかいだ天保山海水浴場が、今、ホテルの前の駐車場のあたりでした。そして生き火を吐く桜島であつた。

あれも無くなつて、これも無かつたー無いものねだりのわが鹿児島感傷旅行の中で、結局変わらないものは人。そして生き火を吐く桜島であつた。

名山堀ならそこです。いま、あんたがおたずねになつている堀を埋めて出来ました。(略)

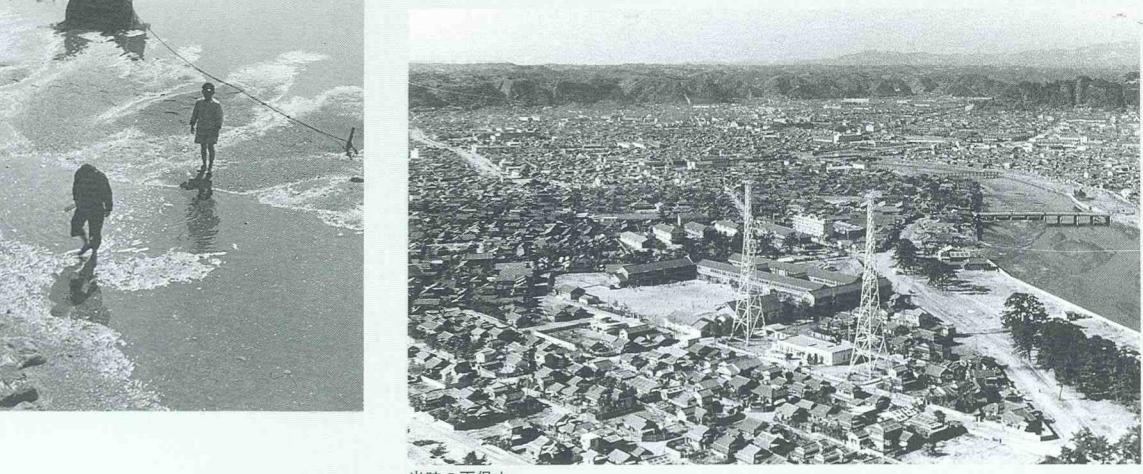
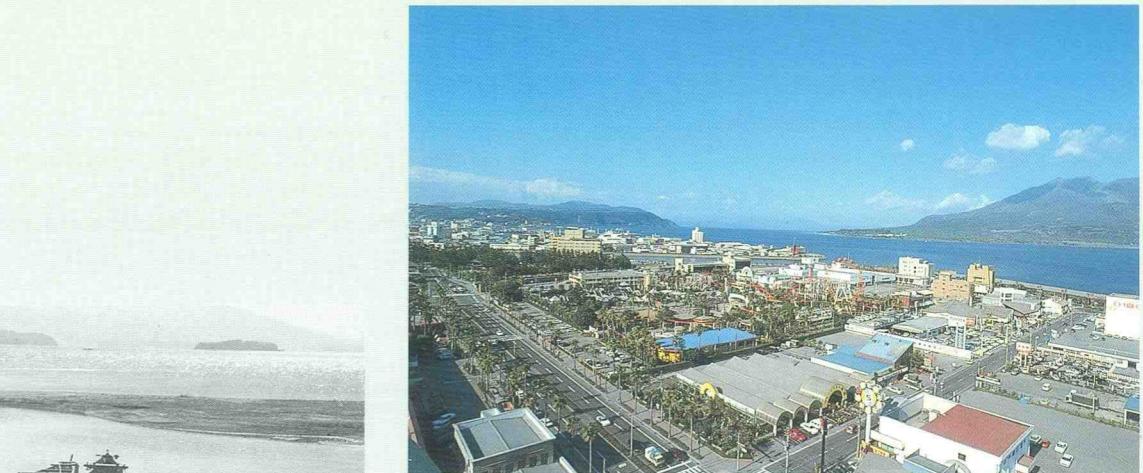


「眠る盆」鹿児島感傷旅行 向田邦子
〔作品解説〕昭和五十四年発刊。日常生活的些事を軽快な筆致で描いた隨筆集。五十七項のうち「さな旅」と「鹿児島感傷旅行」に鹿児島への思いが述べられている。

「名山堀ならそこです。いま、あんたが立つてなさるところです。この通りはあんたがおたずねになつている堀を葉が使えなくなつていて。(略)

それはまつたく予想もしなかつた出来事であった。海へつながるあの幅広い名山堀が消えていようとは。日本中をおおいつくした戦争でさえも消し去ることが出来なかつたのに、生残った人の手がそれをあつけなく始末してしまおうとは、…。

「青幻記」一色次郎
〔作品解説〕昭和四十二年発刊。作品は亡き母と幼き日の自身の姿を求める旅が描かれている。第三回 太宰治賞受賞。



みなど大通り公園

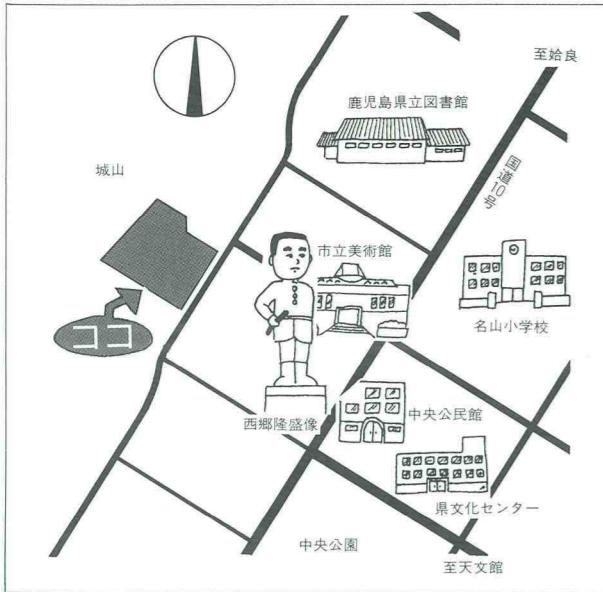


昭和25年の名山堀(鹿児島市戦災復興史より)

文学館ができる

平成八年の完成を目指して、現在、近代文学館の建設準備や資料収集が進んでいます。我が郷土の近代文学に目を向けると、椋鳩十、島尾敏雄、海音寺潮五郎をはじめ、鹿児島ゆかりの数多くのすぐれた文人たちが活躍してきました。そこで、文学館ではこれら近代文学の作家を顕彰するため、その初版本や生原稿、遺品などの資料を収集・保存・展示する計画です。

【特集】文学の舞台鹿児島



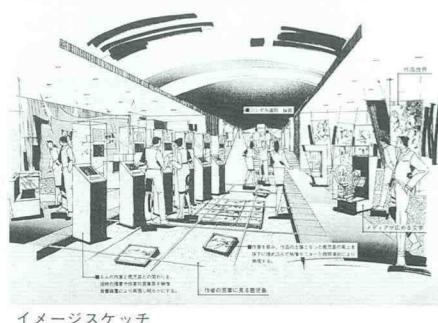
近代文学館 時

維新の動乱、そして第二次大戦…
鹿児島における時の流れは人々の上に大きくのしかかり、多くの人の運命を変えた。
そして、また、時の移ろいが人々の傷を癒し、新たな希望を与えてくれた、鹿児島文学の名品の数々を、改めて見つめ直す時、その背後に流れる“時”的重みにはきっと気付かれる。“時”が生み出した文字は、今、“時”を超えて我々の胸を打つ。

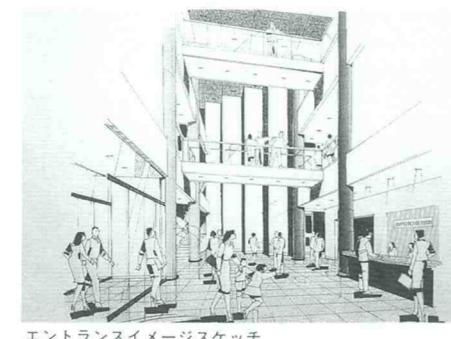
文学というものは、個々の作家の個性が全面に強く押し出され、作家ごとにまったく異なる世界を作り上げられてゆくものである。

しかし、鹿児島ゆかりの文学を一通り眺める時、鹿児島の歴史と深い関わりを持つものが大変多い事に気付く。鹿児島における文学を取り巻く環境を、展示に反映せることを考える時、文学の背後にある“時の流れを無視することはできない。

様々な作家の個性を尊重しながらも、それぞれの作家が“時”といかに関わってきたかにスポットを当てた展示をする。



イメージスケッチ



エントランスイメージスケッチ

- 【建設の目的】鹿児島にゆかりのある近代文学の作家やその作品の背景、鹿児島との関わりなどを学ぶことのできる近代文学館（仮称）を建設し、児童文学賞で醸成された文学振興の機運をさらに高めるとともに、心豊かな文学創作活動を促進し、本市の芸術文化の創造と発展を図ります。
- 【建設場所】鹿児島市城山町153番
- 【完成予定年】平成八年
- ※メルヘン館（仮称）も併設されます。

基本構想・基本計画から



作家達の生原稿

遺品など

初版本

クローズアップ

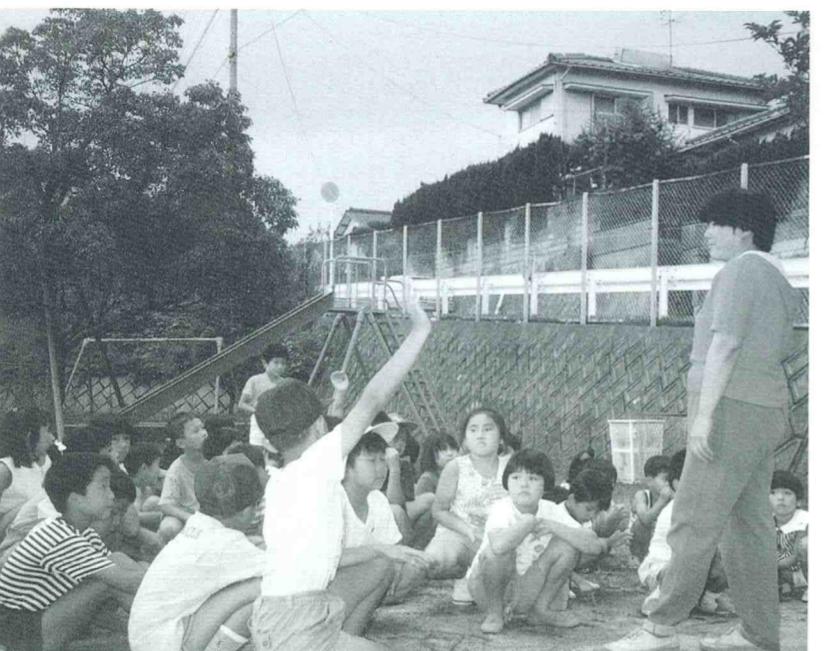
あの子たちが待つているからー武岡読書会へ



橘木 壇子さん

PROFILE

昭和19年生まれ。
群馬県妻恋村出身。
昭和45年に来鹿。昭和53年から武岡読書会を始め、昭和56年から武岡児童クラブの指導員、そのほか、平成6年1月から、主任児童委員も務める。



やっぱり子供は外で遊ぶのが大好きだ。

「来たぞ！おばちゃんが……」このかけ声と共に、武岡三丁目にある後藤谷公園の一角

は、待ちわびた元気な子供たちは熱気で包まれる。

毎週月曜日の午後五時半。

おばちゃんこと橘木さんの武岡読書会が始まる。立つたり、座つたりと思い思いの自由な格好で子供たちが橘木さんを取り囲む。そんな中、ゆっくりとした朗読に子供たちは聞き入る。公園の片隅に突然、出現する青空教室だが、子供たちは生き生きとしている。

**真剣勝負の
十六年間**

本を介してこんな光景が、十六

年間も続いていることに驚く。

「読書会は会員制でもないので、子供たちには名前も問いません。

だからどれくらいの実数がいるかなど何も分からんんですね」と笑う。

だから、子供たちはいつも自然なだけに集まってきた。多いときは四十人ぐらい。長年途切れず続いた背景には、橘木さんを慕う子供たちの口ごみが、兄弟、友

達へと広がっているようだ。

きっかけは、出身の群馬県から鹿児島に嫁いだころ、四歳の我が子連れ、よく近所の公園に出かけ、本を読んで聞かせるようにな

ったことから。周囲にいた子供た

ちが次第に集まり、「読んでほしい」といつしかせがむようになった

ため、父母らの協力のもと、武岡読書会がスタートした。とはい

うそ簡単に十六年間続くものでもない。橘木さんは読書へのこだわ

りをこう話す。「言葉は人間にと

るうえで大切なものの。声を出して

いい文章を読み、一緒に愛情を注

ぎ込むことで、考える子になつ

ほしい」と。子供が好きで好きでたまらない。集まつてくる子供は、幼稚園から小学校四年生ぐらいまでの年代だが、読んで聞かせる本は、童話や絵本を通じ、生命の誕生や死のことなどさまざま。難しいと思える内容だが、子供たちは真剣に聞き、うならせる質問をしてくる。決していい加減なことはない。

研ぎすまされた感性は大人の想像を超えていく。だから、私自身も豊かになるため努力しないといけない。

（時事通信社鹿児島支局小田一仁）

この活動は続けられない。私にと

って真剣勝負なんです」と熱っぽく語る。

子供の目は輝いている

最近、読書会で気になるのは、ひ弱な子供たちが多くなったことだという。塾や習いごとなど忙しい放課後に加え、お手伝いなどの肉体労働の経験も少なくなつた。核家族化も一因のようだ。

それでも「目の輝き」は、いつ

の時代もやはり変わらない。読書会で育ち、現在大学生や社会人に

なつてている子供たちが訪ねて来る

と、「歳をとる時の流れを感じます」と話し、満遍ない笑顔が心境を表す。

今では、これまでの実績が買われ、武岡児童クラブの主任指導員も務める。一連の活動は、ご主人の弘行さんや、四人の息子、娘さんたちの理解が大きな下支えとなつた。最後に十六年間続いたパワーの源は何ですかとの問い合わせに、約束もない読書会に、あの子たちが待ってくれているから」と、うれしそうに話してくれた。

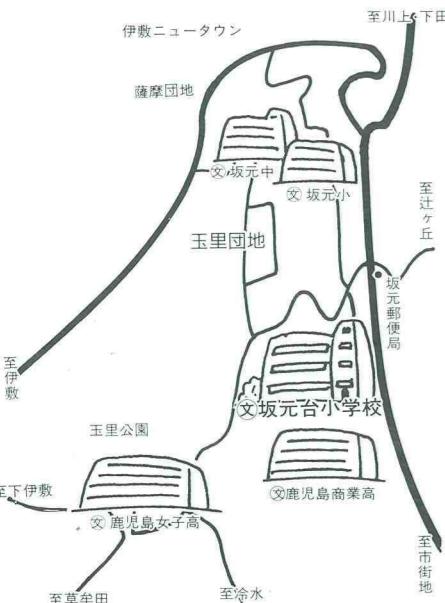
（時事通信社鹿児島支局小田一仁）

学・校・探・訪



坂元台小学校

●創立…昭和60年4月
●児童数…613人
(平成6年9月1日現在)



創立十周年。明るく活気に満ちた学校。



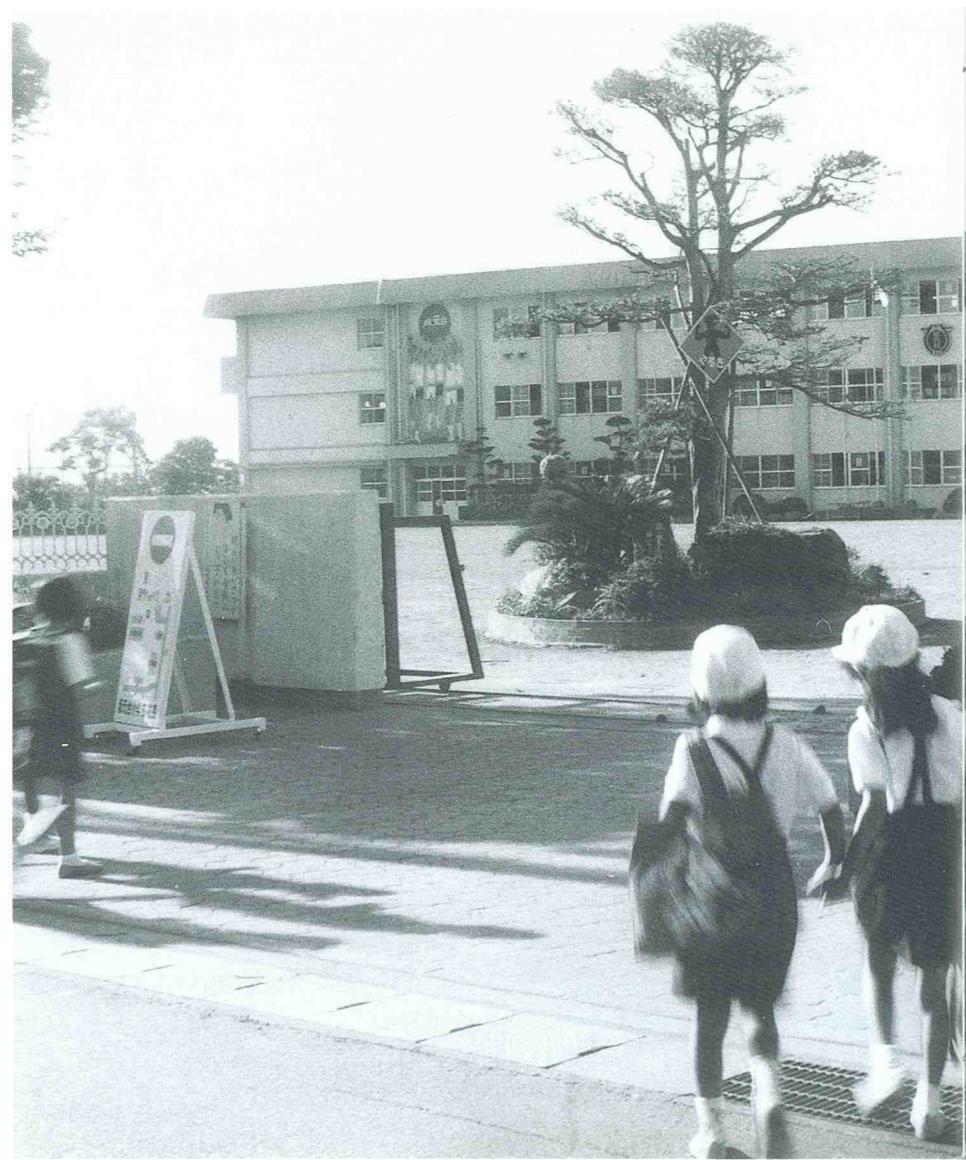
ムシ歯ゼロを目指して！みんなで楽しくブラッシング。



坂元台小児童の碑。この碑の校訓を心に、毎日がんばっています。



全国大会へ出場したサッカー部。練習試合でも一生懸命です。(玉江小との練習試合)



朝日を浴びて元気に登校。“おはよう”のあいさつで一日がスタートします。(夏休みの登校日)

私たちには、本が大好きで、読書活動もさかんです。これからもたくさんの方を読み、いろいろな物語と出会いたいと思います。

坂元台小学校の一番の目標は「日本一楽しい学校にすること」です。校訓である「やる気、元気、根気」を胸に六百十三人の心を一つにして、日本一楽しい学校を築きあげていきたいです。

私は、本が大好きで、読書活動もさかんです。これからもたくさんの方を読み、いろいろな物語と出会いたいと思います。

坂元台小学校の一番の目標は「日本一楽しい学校にすること」です。校訓である「やる気、元気、根気」を胸に六百十三人の心を一つにして、日本一楽しい学校を築きあげていきたいです。



図書室は知識の宝箱。さて、今日はどの本を読もうかな？



みんなで力を合わせて美化活動。チリ一つ落ちていないのが自慢です。



力いっぱい走った小運動会。さあ、今度は大運動会の番です。

私たちの坂元台小学校は、桜島と錦江湾がよく見渡せる高台にあります。現在の児童数は六百十三人。昭和六十年に開校し、今年で創立十周年を迎えた、明るく活気溢れる学校です。

校訓は「やる気、元気、根気」。

それと一ヶ月ごとに生活目標、保健目標をたて、それに向かって努力しています。

いま、一生懸命なのは「あいさつ」です。一人ひとりが「みんな気持ちよくなれるように」と心がけています。

私たちの学校には、開校当時から守りつづけている伝統があります。それは、六年生が朝行う「奉仕作業」です。学校に登校したらすぐにほうきを持ち、力をあわせて取り組んでいます。そのおかげで、学校はたいへんきれいです。一人ひとりが「みんな気持ちよくなれるように」と心がけています。

私たちの学校には、開校当時から守りつづけている伝統があります。それは、六年生が朝行う「奉仕作業」です。学校に登校したらすぐにほうきを持ち、力をあわせて取り組んでいます。そのおかげで、学校はたいへんきれいです。一人ひとりが「みんな気持ちよくなれるように」と心がけています。

スポーツ少年団や金管バンドの活動もさかんで、全国大会に行ったり、各大会で大活躍しています。

また、「一人一鉢運動」も行っており、花がきれいに咲き並んでいます。

そのおかげで、学校はたいへんきれいです。一人ひとりが「みんな気持ちよくなれるように」と心がけています。

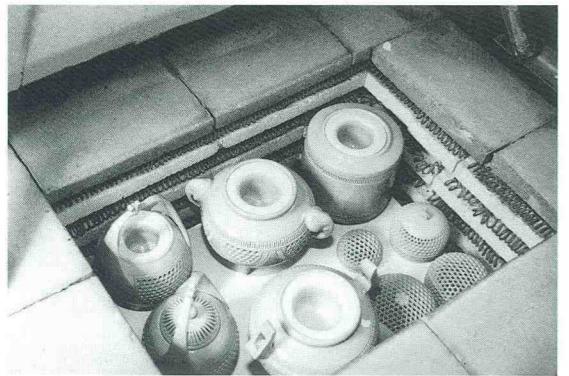
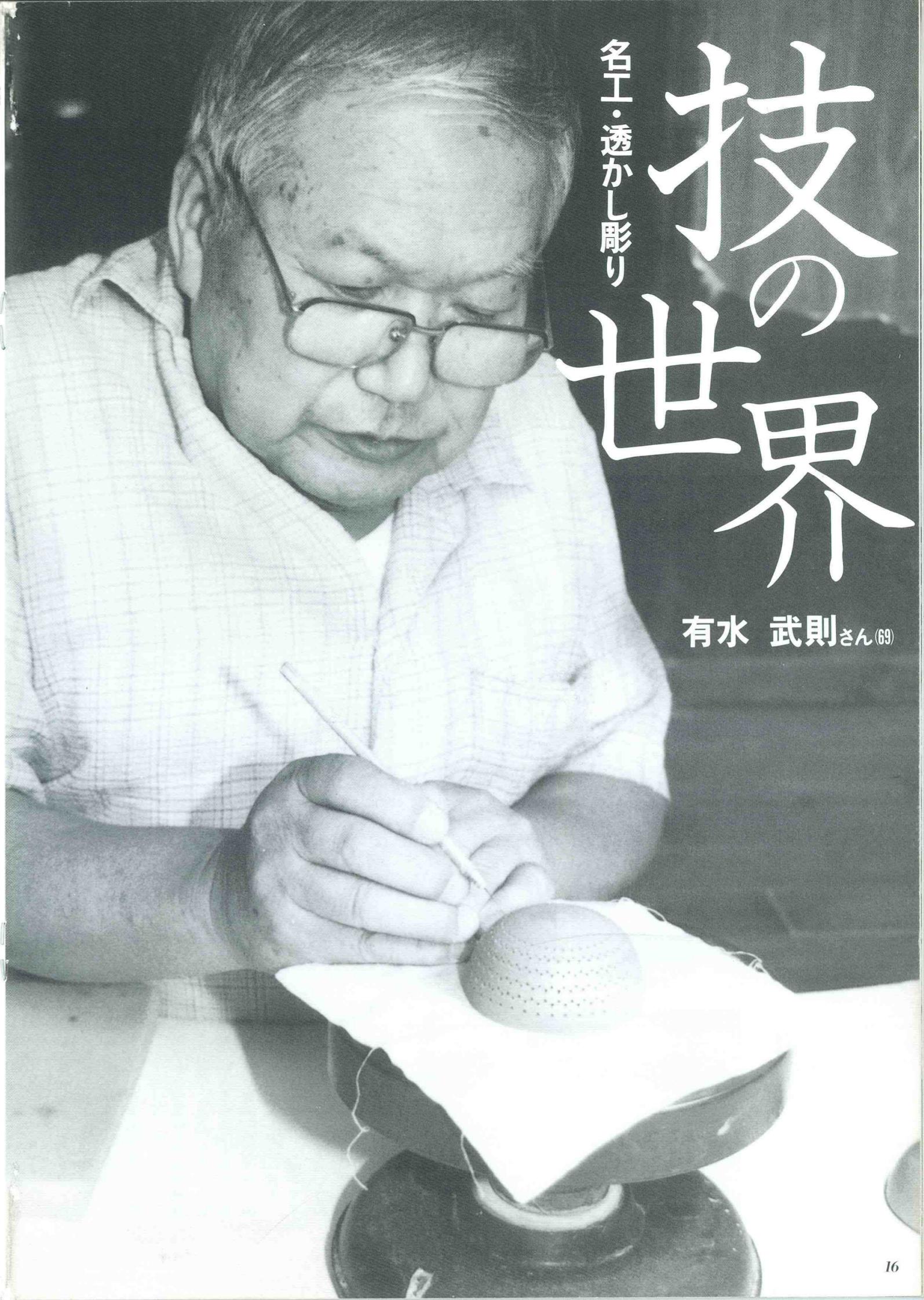
**日本一楽しい
坂元台小学校**

六年 小村祥子

技の世界

有水 武則さん(69)

名工・透かし彫り



うわぐすりを施して焼き上げる。出来上がりをみる緊張の一瞬。

「満足に作れない自分に腹をたて、1ヵ月間の作品を全て投げ割った。」

器屋に飾つてあつた一卓の香炉。有

水青年はその前で呼吸をすることも

忘れ立つつくした。一目惚れであつ

た。以来、苦難と喜びの日々が始ま

つた。

心の中では、原点の香炉が姿を変え、文様を変え、さまざまにその創

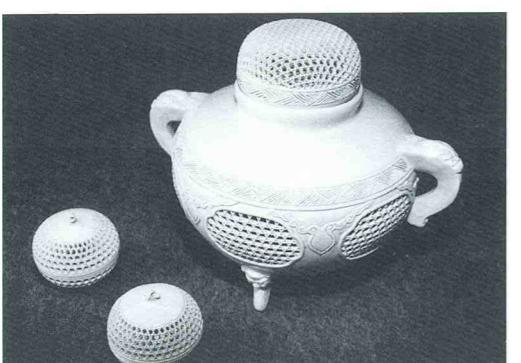
造性を膨らませていく。

「何しろ誰にもつかず、見よう見

まねで作ろうというのですから……

物を大切にしないとしかられそうで、一ヵ月間の作品を全て投げ割つたこともありました。」正直に話して

くる有水さん。



香炉(右)と香合(左)。白薩摩の肌にはら目文が美しく映える。

それだけに有水さんの透かし彫りに対する想いの丈はみなみならぬものがある。土はきめが細かくなくてはならない。土はきめが粗い土だと、ばら目文を彫る時に土がくずれてしまう。有水さんは市来町の土と福岡県の土を取り寄せて自ら調合する。

ろくろで形を整えた後、いよいよあるお寺から手紙をもらつた時。以前私から買い求めた香合のつまみがこわれたとのことで、つまみを作つて送りました。するとすぐ、今度は大事に使いますとの手紙が来ました。私の手元を離れた小さな焼き物が、新しいところでまた命を与えられ頑張っているのだと思つたら、心がうきうきし、見るもの全てが少しだけと明るくなつたようでした。

有水さんにこれから目標をきいてみた。

「長生きすること。そして、色々な作品に挑戦してみたい。例えば、今、虫かごの把手を細くする工夫をしています。それだけで、秋の風情がわいてきます。毎日が研究です。」

有水さんの透かし彫りに対する想い。それは四十年前の「一目惚れ」のまま、せせらぎを幾つもあつめ、はるかなる大河となつて、悠々とし

かし激しく流れ続けている。

「工房にはクーラーも暖房もありません。クーラーを入れたら土が乾いてしまう。暑いときは汗をかき、

寒い時は凍え震えながら、彫ります。

透かし彫りは土のやわらかさが問題。土が生乾きの状態で、彫り込むのに適した含水度がある。その時、精神を統一し、集中力を蓄え、一心に彫りあげるのだという。

「工房にはクーラーも暖房もありません。クーラーを入れたら土が乾いてしまう。暑いときは汗をかき、

寒い時は凍え震えながら、彫ります。

すると、土も心を開いてあれこれと話しかけてくれます。そこで、土と相談し、濡れタオルを半日掛けなどして、一番よいやわらかさに

してあげることができます。」

有水さんの作品は今、薩摩焼きの中でも「白薩摩」の代表として全国各地に出品されている。

「一番うれしかつたのは、北海道のあるお寺から手紙をもらつた時。以前私から買い求めた香合のつまみがこわれたとのことで、つまみを作つて送りました。するとすぐ、今度は大事に使いますとの手紙が来ました。私の手元を離れた小さな焼き物が、新しいところでまた命を与えられ頑張っているのだと思つたら、心がうきうきし、見るもの全てが少し

だけと明るくなつたようでした。」

有水さんにこれから目標をきいてみた。

「長生きすること。そして、色々な作品に挑戦してみたい。例えば、今、虫かごの把手を細くする工夫を

しています。それだけで、秋の風情がわいてきます。毎日が研究です。」

有水さんの透かし彫りに対する想い。それは四十年前の「一目惚れ」のまま、せせらぎを幾つもあつめ、はるかなる大河となつて、悠々とし

かし激しく流れ続けている。

「工房にはクーラーも暖房もありません。クーラーを入れたら土が乾いてしまう。暑いときは汗をかき、

寒い時は凍え震えながら、彫ります。

透かし彫りは土のやわらかさが問題。土が生乾きの状態で、彫り込むのに適した含水度がある。その時、精神を統一し、集中力を蓄え、一心に彫りあげるのだという。

「工房にはクーラーも暖房もありません。クーラーを入れたら土が乾いてしまう。暑いときは汗をかき、

寒い時は凍え震えながら、彫ります。

透かし彫りは土のやわらかさが問題。土が生乾きの状態で、彫り込むのに適した含水度がある。その時、精神を統一し、集中力を蓄え、一心に彫りあげるのだという。

「工房にはクーラーも暖房があり

HELLO ハロー鹿児島



「日本語はとても難しいです」
眉間に少ししわを寄せ、一句一句
考えるように曾さんは言った。

曾富益さんは、今年7月から鹿児島市水道局に来ている中国長沙市の研修生だ。今でも日本語の勉強は欠かせないが、昼休みには同僚たちと筆談を交えた世間話が弾む。

長沙市では、水道公司生産計画科の科長を務める。揚子江の支流湘江から水を引き、水量の管理や給水管の設置をするのが主な仕事。水道技師である曾さんは、この研修で水処理の現場を見て回り、特にコンピューターによる自動制御と水の管理方法を学びとて、中国での現場の仕事の効率化と水質向上を図りたいと張り切っている。

中国に家族を残し、自炊生活をしながら研修に励む曾さん。和食も嫌いではないが、やはり母国の料理が一番という彼は、麻婆豆腐が得意。また歌が好きで、たまに行く天文館のカラオケが楽しみですと照れ笑いしながら教えてくれた。

今後の抱負は？の問い合わせに、市民の皆さんと仲良くなつて自分もいい市民になりたいという答えが返ってきた。市木が楠で市花がつづじだという長沙市。暑さも緑の豊かさも人情の厚いところも似ていると話す曾さんを見ているうちに、鹿児島市の友好都市長沙市が海を越えてぐんと近づいたように思えた。

そ
曾
ほう
富
えき
益
さん
●中国長沙市●



シティーアングル

CITY
ANGLE

街の
顔

流逝の宇宙人

モアイ像

見事な歯並び

巨大イカ

笑顔がいいね

街には、様々な「顔」がある。

彼らは、忍者のように、
壁や地面に同化し、
目立たぬように、

ひつそりと生息している。

そんな彼らのエーモラスな表情を
ウォッチング！

わたしの好きな場所

故郷の自然は、「心の糧、元気の素」

鹿児島地方気象台 予報課長

前田 一郎さん

宇宙に一番近い公園～錦江湾公園

実寸大のH2ロケットの模型がどーんとそびえ立ち、電波望遠鏡が宇宙観測をしている。まさに宇宙に一番近い公園ですね、ここは。

天気のいい週末は、高校生の娘とよく散歩に来るんですよ。

見晴らしはいいし、空気はきれい。芝生で戯れる家遊連れを見ていると、こちらまで心が和んでいます。

転勤で鹿児島市へ帰ってきて四年目になるんですが、こんなとき、生まれ故郷のよさをあらためて実感しますね。

ロケット広場まで上ると、眺望抜群。でも、仕事が忙しい空を眺め、雲の流れだとか湿度などを観察してしまうんですね。娘には笑われますがね。

気象用語に「観天差々」という言葉があります。

これは実際に外に出て、五感で気温や湿度を感じて天気を予想するという言葉です。

いくら科学が発達しても、人間の感性にはまだかなわない領域がたくさんあります。

その意味で、この展望台から見る景色は、子鶴官をしてきた私にとって非常に多い観測場所です。

潮風が心地よい北ふ頭

気象局の観測船で赤道に行ったりして、身近に海を見ているせいでしょうか、海が大好きなんですね。

家族が買い物をしている待ち時間には、よく北ふ頭に車を止め、一人で海を眺めたりしています。

自然の変化に興味があるというか、季節の変化を、波や時々腰にあつた気象台の火山観測所にぶらっと遊びに行つたことを思い出しますね。

今から思うと何か因縁めいたものを感じます。

少年の日の思い出～松方橋周辺

風、空気の動きでじかに感じていたいんです。

この灯台のあるボードウォーク「しおかぜ通り」、ロケーションも絶好だし、とてもいい雰囲気ですね。

将来は水族館も完成すると聞いて、今から楽しみです。

ちょうど今桜島フェリーが来ましたが、中学生のころ、当時袴腰にあつた気象台の火山観測所にぶらっと遊びに行つたことを思い出しますね。

今から思うと何か因縁めいたものを感じます。

甲突町で育ち、子どものころは、よく松方橋の周辺で魚をとつたり、はだしで駆け回っていました。それだけに、上流の武之橋が流されたと聞いたときは、本当にショックでした。

武之橋の隣りにあつた赤く塗った鉄橋をチンチン電車のどかに走る光景も、子ども心中に焼きついています。

松方橋も当時は木橋で、ちょうど真ん中あたりにぼつかりと穴が開いていたんですね。穴から見える川の流れは、今より澄んでいて水量も豊かでしたね。

大人になつた今でも、この橋で遊んだ場面を夢に見るのです。

鹿児島を離れても、この川、そして故郷の豊かな自然は、私の「心の糧、元気の素」として、いつまでも私を魅了し続けることでしょう。

現在、上福元町に在住。

●取材メモ

台風が接近するたびに、テレビに登場する機会が増える前田予報課長。

スマートな語り口で、お茶の間のファンも多いとか。

一年に発生する台風の数は、平均して二十八個。夏から秋にかけての台風シーズンは、東郡元町の新庁舎で、昼夜を分かたず予報職員二十人の陣頭指揮にあたる。

気象予報士制度の導入など、今、「気象」に大きな関心が集まるなか、気象台にかかる期待も大きい。

鹿児島市出身の四十七歳。

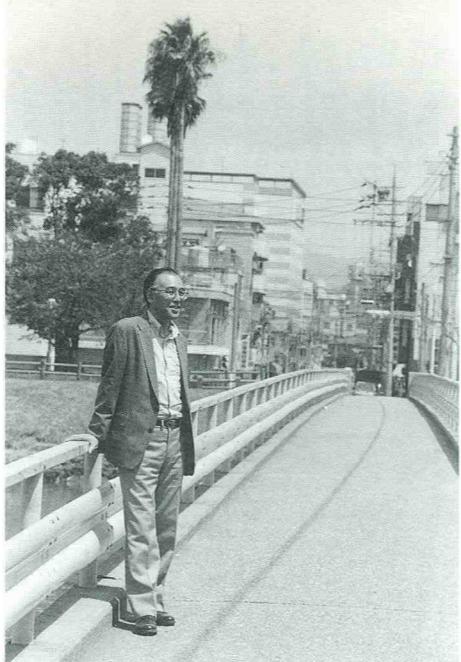
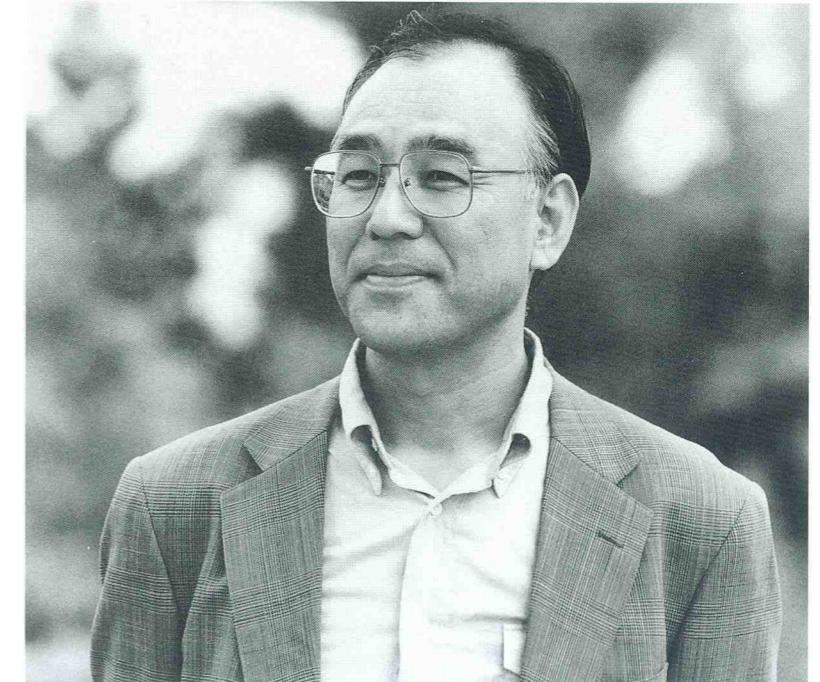


心地よい潮風に吹かれて～北ふ頭

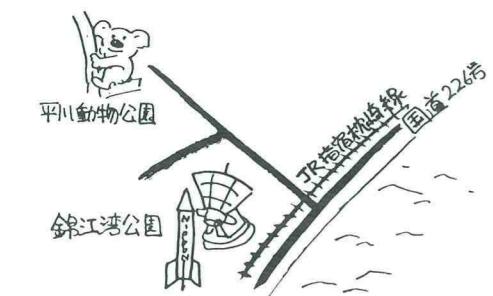


電波望遠鏡の前で鹿児島大学の先生としばし宇宙談議

雄大なH2ロケットの模型が宇宙へのロマンをかき立てる



甲突川はわが心の川。幼いころの思い出がよみがえる

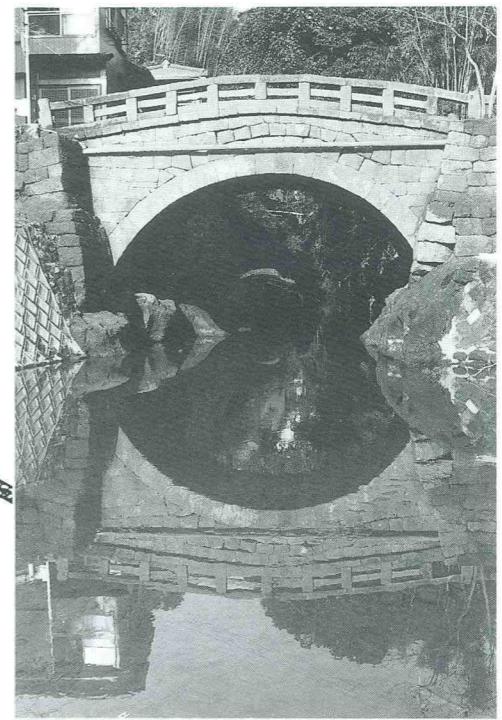


歴 史 ふるさとの 探 訪

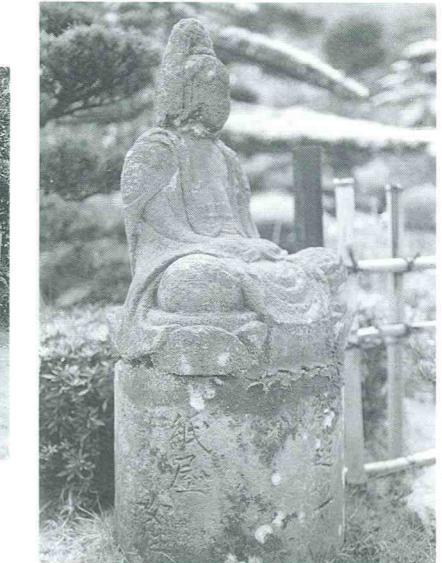
兵六が碟者坂で、 茨木童子に

玉知

鹿児島市吉野町（実方）



流出前の実方太鼓橋



太鼓橋近くにある紙屋女性講觀音



悲鬼童子幽鬼と遇ふて
脇をひくし
辟易するの風



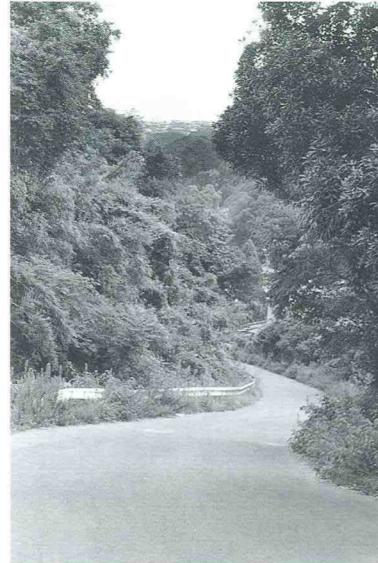
兵六茨木童子に出合うの図



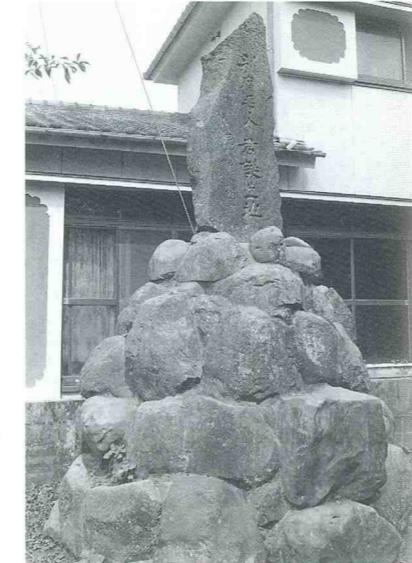
藥園記



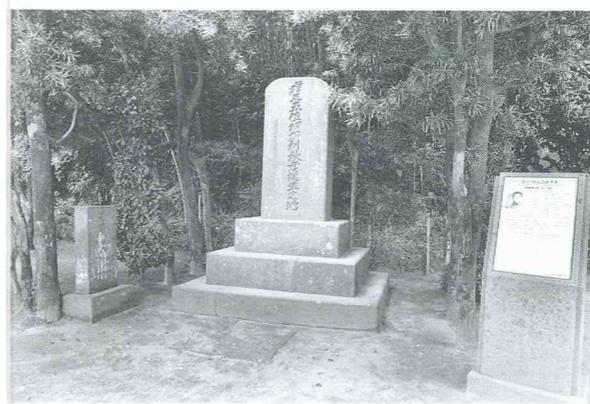
現存するアキニレの木(吉野小学校内)



砾者坂



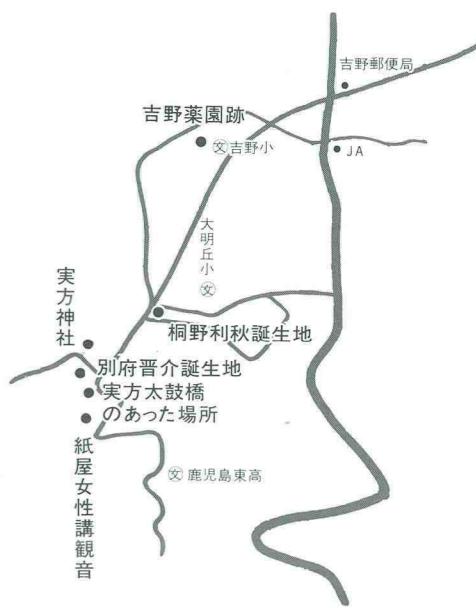
別府晋介誕生地



桐野利秋誕生之地碑



太鼓橋近くにある紙屋女性講觀音



実方の近くまでくると、紙をつくる音が聞こえてきた。まだ夜中というのに、これは一体どうしたことかと、驚く兵六の気持が落ちつかなくなつた。すると遠くに近くに、あちこちの野山いっぱいにかがり火が見えはじめた。「これはしまつた」と、兵六の力は早くも抜けてしまつた。実方の太鼓橋を渡つて、やつと吉野原の狐どもの正面に躍り出た。牟礼が岡の方を見上げると、白馬、赤馬がずらりと並び、山の下には、数千の狐が鼻先をそろえて並んでいるのが見えた。心の奮い立つた兵六は「化け物ども、一匹残らず、打ち落して串刺しにしてやるぞ」と、言いながら、ぼつけもんの桐野利秋の誕生地と、西南戦争の幕引きをし坂道を越えて行つた。

聞しただけでも恐い砾者坂の下までくると、急にあたりの様子がおかしくなった。月も曇つて真っ暗になると、左の松山から「さあ喰うぞ」と化け物が飛び出してきた。二つの眼は、鏡のように光り、真っ赤で、唇は耳のそばまで裂け、上下の歯は食い違い、頭の髪は、真っ逆さまに立つて、恐ろしい姿で、言いはじめた。「おれを何者かと思っているだろうが、われこそは、都で名をあげた茨木童子の幽靈である。お前のような若者は、ただ一口よ」と、言いながら熊手をさしのべ耳を引き、えいこらと引っ張つた。兵六は、まるでふとんの上で泳いでいるようなもので、何もできません。「これこれ、兵六、われこそは、酒天童子の次に名高い茨木童子だぞ、酒飲みが大好きだ。人間の骨でも、鶏の空揚げでも、何でも持つてこい」と、大声で言わると、兵六は、抜いた太刀を鞘に納めることもできないで、ぶるぶるとふるえながら「おっしゃる通りです。昨日の夜、口に任せて大きなことを言つたのは謝ります。『血気盛んな侍が、一度家を出たら、ただでは帰らない』と、言つたのも、みんなうそだから、許して下さい。着物は、母の手織木綿ですが、強く引っ張つた後ろをも振り返りもせず、吉野薬園のある帯迫へ一日散に逃げて行つた。

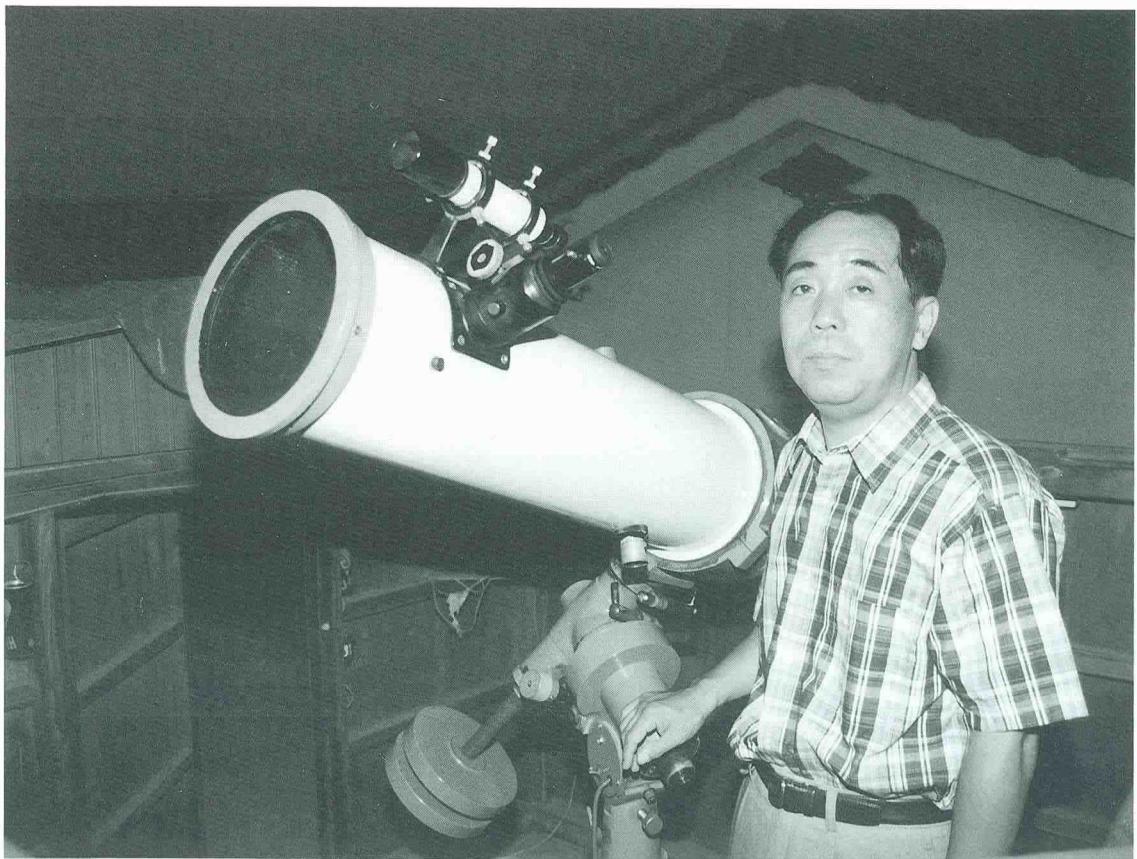
〔大石兵六夢物語〕

「これは一七二六年（一七四〇年）のころ、川上某が民話をもとに書いた『大石兵六物語』を一七八四年毛利正直が『大石兵六夢物語』に書き改めたものです。物語は薩摩の若侍の代表、大石兵六が吉野の原の狐退治に向かう途中、十四回も狐の化物に会いながら、ついに二匹の大狐を討ち取ります。しかし、兵六も丸坊主にされて帰つてくる

よかタイム

天文

●小野三丁目の
池田 敏孝さん



Q よかタイム7つの質問 A

A5 Q5

A4 Q4

A3 Q3

A2 Q2

A1 Q1

現在の活動状況を
教えてください

同級生の望遠鏡で月を見てから
その魅力にとりつかれました。

きっかけは

天文に興味をもたれて
どのくらいですか

中学3年生からですので、
もう30年くらいになります。

天文の
おもしろさは

気障な言い方をすれば、宇宙
の神秘さ偉大さにひかれたと
いうところですが、本当は好きで
しようがないという感じですね。

特に、何を
観望しているのですか
最初のきっかけが月でしたので、
今も月が好きです。月の
写真をずっと撮りつづけています。
あと木星なんかもいいですね。

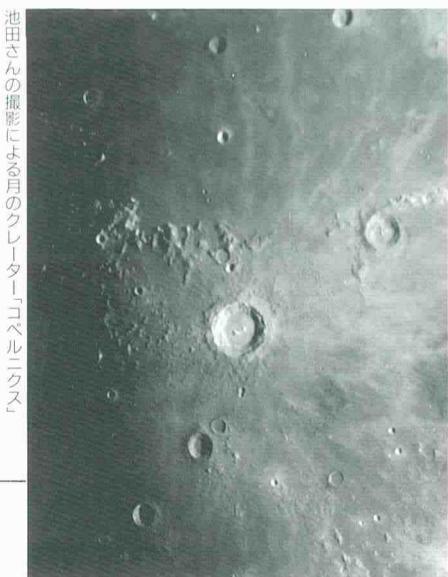
自宅の車庫の上に手作りのド
ームがありますので、普段は
自宅で観望し、場合によつては車
に機材を積み込んで、入来町や市
来町あたりまで出かけます。

余暇時間の何割
これから天体観望を始めてみようとい
う人に一言アドバイスを

天気がよければ夕方から一晩
中やっています。

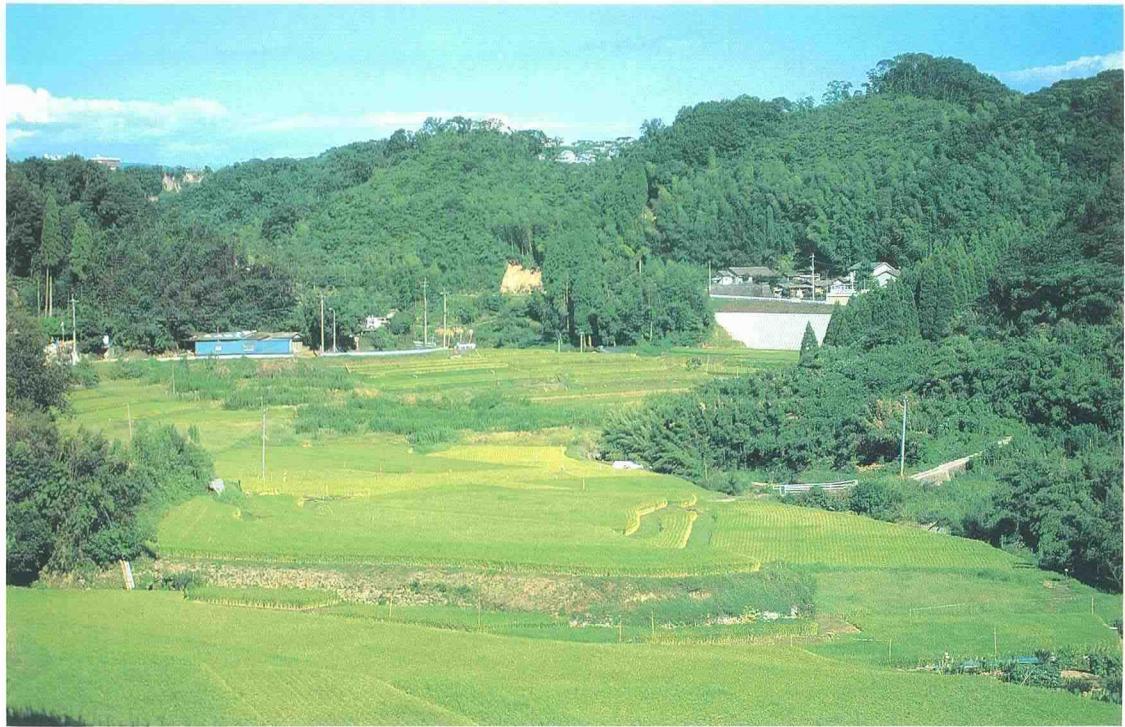
スポーツと同じで、経験者に
教わったり、グループに入つ
ていろいろな勉強をするのが一番
いいと思います。興味のある方は
ぜひ我が家において下さい。大歓
迎します。

温和な顔で優しい語り口の池田さ
ん。反射望遠鏡を初めてのぞいた
私も一つ一つの星の説明を丁寧
にして下さいました。

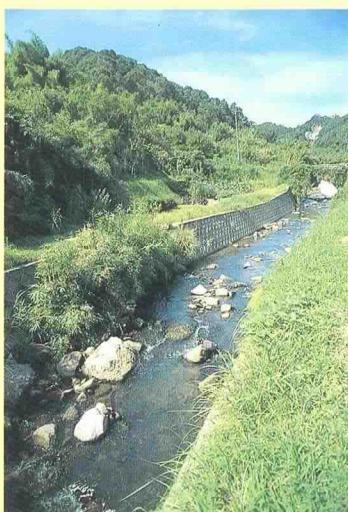


かごしまの 犬迫の風景

自然



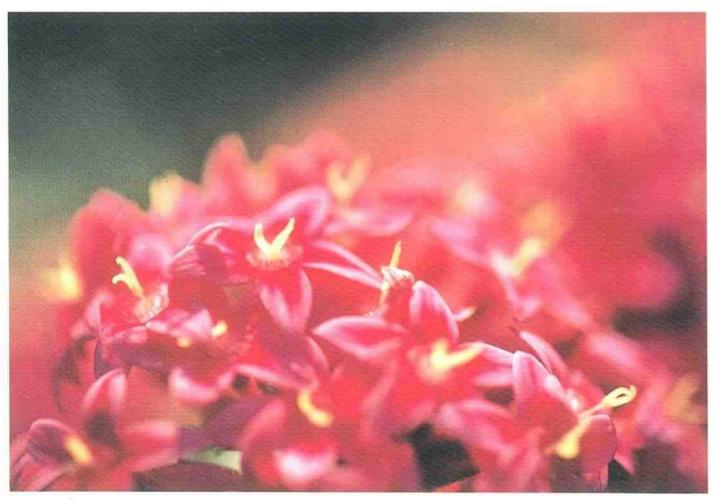
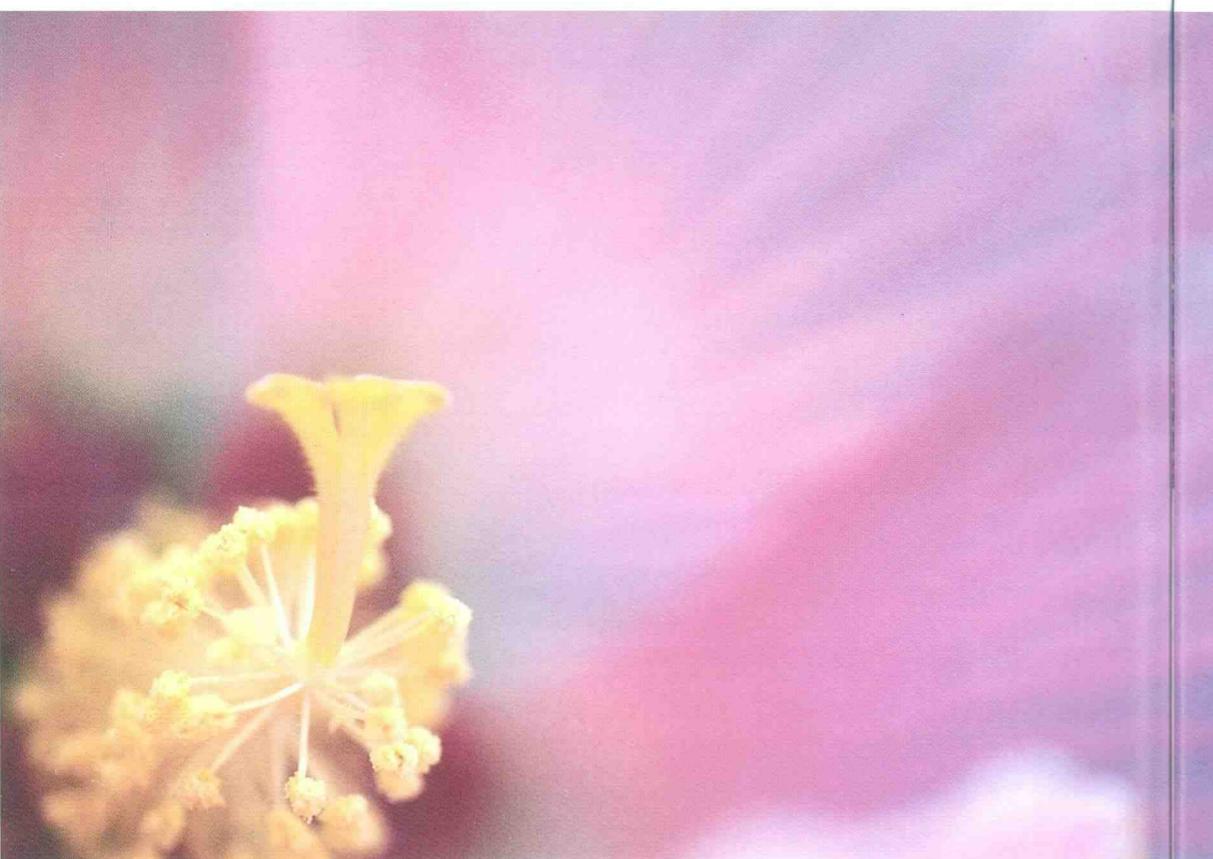
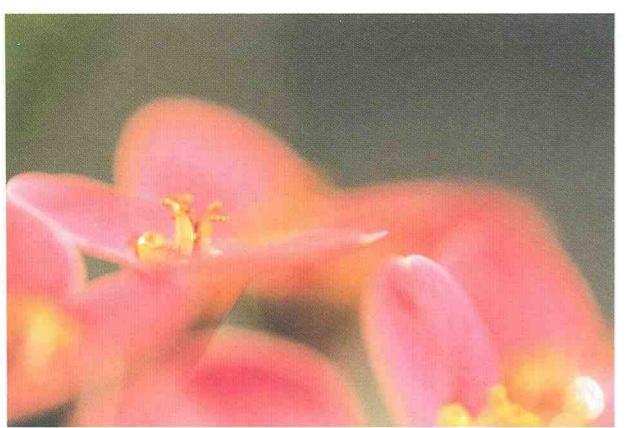
国道3号から河頭大橋を渡り西へ。
短いトンネルを抜けると、一面に秋色の田園風景が広がり、
そのあいだを縫うように犬迫川が流れ、水面が輝いている。
ふと見上げると、さわやかな秋空が広がる。
厳しかった夏の暑さをいやしてくれる一陣の風が、頬をくすぐる。
稲穂が揺れ、木の葉がそよぎ、
山から生命のハーモニーが聞こえてくる。
遠くから子どもたちの元気な声が流れてきた。



あなたの
フォトサロン

写真＝妹尾隆二さん

「花の
ファンタジー」





「演奏よし 歌よし 踊りよし」の ミュージッククラブ

さわやかな秋の昼さがり、緑に包まれた市立いしき園（養護老人ホームと救護施設を併設）から、にぎやかな音楽が聞こえてきます。

「心のうさは歌に変え うれしいことは 分かち
あい ここは楽しい いしき園……」。
(いしき園歌より)

演奏しているのは、いしき園ミュージッククラブの皆さん。

平均年齢81歳とは思えないフレッシュな演奏で、毎月の誕生会やクリスマスパーティー、施設交流での舞台演奏などで、ひっぱりだこの人気演奏グループです。

この「演奏よし歌よし踊りよし」のミュージッククラブが結成されたのが昭和52年の夏。

「最初はまず、職員もいっしょになって音譜を読む練習から始めました。

視覚障害の方には、ハーモニカで演奏する音を何回も聴いてもらい、体で覚えてもらいました。

皆さん練習熱心で、月2回の練習だけでは足らないと、自分の部屋でも歌を口ずさんでいますよ」と語るのは、設立当初からクラブの世話役を務める寮母の中村和子さん（アコーディオン）。

今では、唱歌・演歌・軍歌などレパートリーも100曲を超えるほどに。

曲が懐メロの「ラバウル小唄」に変わる。

皆さんの表情にいっそう輝きが増し、真っ赤なベレー帽がメロディにのって楽しげに揺れています。

集えば 楽じ

いしき園ミュージッククラブの皆さん

サークル紹介

市立美術館

art
Museum

じゅろうじん 寿老人

(室町後期)

サイズ: 118.3×58.5cm

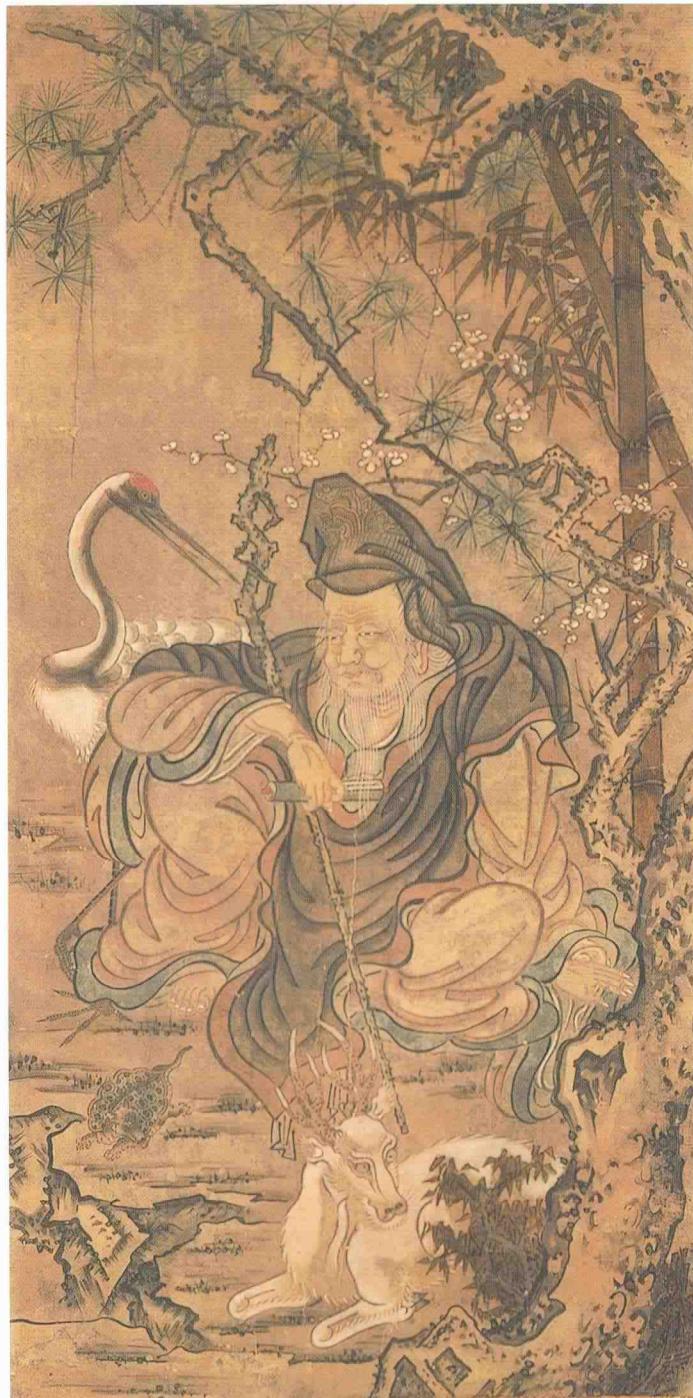
紙本墨画着彩・軸装

とうせき 等碩 (生没年不詳)

〈作者〉

鹿児島の美術といえば、黒田清輝や藤島武二といった明治以降の近代洋画を思い浮かべる人が多い。しかし、それ以前にも長い絵画の歴史があり、近代洋画もそういった伝統と無縁というわけではない。そして、仏教美術は別として、鹿児島の鑑賞絵画の歴史を、はっきりとした絵師の存在によってたどることができるのは、室町時代の秋月等觀以降のこととなる。

ここに紹介する等碩は、秋月の子息と伝えられているが、生没年などはよくわからない。おそらく室町時代末期頃に活躍し、島津家に仕える絵師であったろうと思われる。秋月の師であつた雪舟の水墨画を修得している。「牧雲」の別号があったとされるが、伝来資料の極めて少ない絵師である。



解説

寿老人は、十一世紀末頃、中国に実在した人物と言われている。道教や神仙思想の広まりによって神格化され、絵画の好題として描かれるようになつた。その姿は、白いひげをたくわえた長い頭の老人で、杖をつき鹿を連れていることが多い。我が国では、七福神の一人に数えられ、長寿を授けるとされている。

本図には、松の木の下に座る寿老人の姿が描かれている。その背後には竹と梅が見えるし、寿老人は白鹿だけではなく、鶴や亀までも従えている。すなわち、この絵は縁起の良い画題をふんだんに盛り込んだ吉祥図となっている。画面右下に朱文重廓方印「等碩」がある。

雪舟様式をうかがわせる本作品は、薩摩における室町水墨画の伝統を伝える貴重な資料である。

山西 健夫

市立美術館学芸員



皆さん暮らし便利に 鴨池市民 サービスステーション



住民票写し等 申請受付ボックス

休日、夜間を含め、24時間いつでも
住民票や戸籍謄本の申請ができます

場所／本庁、谷山支所、伊敷支所、
東桜島支所、吉野出張所

■しごとの内容

- 住民票の写し
- 住民票記載事項証明書
- 公的年金記載事項証明書
- 印鑑登録証明書
- 戸籍謄本・抄本
- 戸籍の附票の写し
- 身分証明書

■利用できる時間

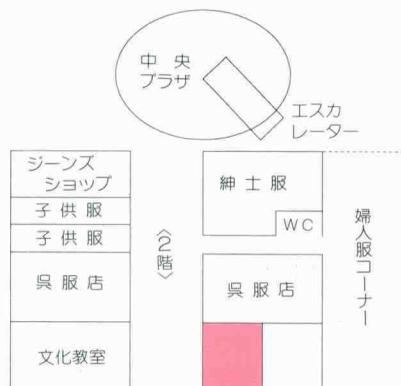
- 午前10時～午後6時

■利用できない日

- 水曜日
- 年末年始（12月29日～1月3日）

■場所

- ダイエー鹿児島店2階
☎ 50-7595



「鴨池市民サービスステーション」

階段
↓
1階東側入口